

# しんりんかんだより

‘24 第11号 (vol. 95)

年主題

「さあ、漕ぎだそう奏でよう」

月主題

1, 2 歳児 そうなんだ

3, 4, 5 歳児 響き合う

2024年2月3日発行



## 「響き合う」

1 月中旬から、進級に向けて、こぼと組が2階小部屋に降りてきて、幼児クラスと交流しながらの生活を始めています。すると今まで幼児クラスでは一番年下だった虹組さんが「これ車あるよ～」と声をかけて遊びに誘ってくれたり、散歩の際はこぼとさんが靴を履くまで待っていて、「一緒に行こう」と手を繋いでくれています。食事では、自分でおかわりをもらいに行けるのが嬉しくて、食欲が増しているこぼとさん、おかわりの列に並ぼうとすると、「ここいいよ…」と列の間にさりげなく入れてくれます。

プラレールを部屋いっぱい広げて遊んでいると後から入ってきた、こぼと組のRちゃんが列車を逆走させて、みんなの電車にぶつかってきました。「こっち向きに走って…」とやさしく伝える年長のHくん。「やめてくれる」と声をかける年中のT君、どちらもRちゃんを直ぐに止めるのではなく、どうするのかな？と見守っていました。大人の方が先に「やめて」とか「だめだよ」と声を掛けてしまいましたが、子どもたちとその待ちの時間を共有することにしました。すると暫くしてRちゃんも電車をバックさせ始めたのでした。

先週末の鍋パーティーには、保護者、卒園児、在園児合わせて20名ほどが集まりました。久しぶりの再会を喜び、懐かしの遊具での遊び、入園前の乳児さんをあやしたり、遊んであげる姿を見て、親隣館の子どもたちの雰囲気はかわらないなあ～と温かい気持ちになりました。大人も子どもも自然と響き合う、この雰囲気が親隣館保育園なのだと思います。園児減少の中、この良さをどのように発信していけるのか、どうぞ皆様のお知恵をお借りできたらと思います。

(主任 鹿糠 正美)